



写真:キリシマシャクジョウ(撮影:令和元年11月2日)

## 「キリシマシャクジョウ」

キリシマシャクジョウ *Burmattia liukuensis* ヤマノイモ目 ヒナノシャクジョウ科

光合成しない植物

**白** 鳥温泉下湯からえびの高原をつなぐ「アバンドント白鳥郷土の森」。驚くほどたくさん

の巨木から構成される森では、自然豊かな南九州でも他には見られない風景の中を歩くことができます。巨木の姿に圧倒されながら歩を進めていると、足元に細く白い糸のようなものを見つけました。しゃがんでよく見てみると先端には花があります。「霧島」の名がついたキリシマシャクジョウです。

一般的な植物は、葉があり緑色をしています。この植物は葉を持たず、葉緑素を持たないため真っ白。光合成をせず、エネルギーを地中の菌類から得ている珍しい植物です。

錫杖は、先端に輪のついた仏具のことです。丸い花と細く長い茎を錫杖に見立てたのでしよう。

9月から11月が地上へ茎を伸ばし、花を咲かせる時期。巨木の森の中、草丈10cmほどの小さな存在との出会いは、植物の進化、霧島山の生物の多様性を感じずにはいられません。

(文)えびのエコミュージアムセンター